

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1770101192		
法人名	医療法人社団仁智会		
事業所名	グループホーム神宮寺		
所在地	金沢市神宮寺2-12-12		
自己評価作成日	令和3年2月26日	評価結果市町村受理日	令和3年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和3年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げている「毎日笑って」を常に心がけて支援させていただいています。心身ともに良い状態であることが笑顔につながると考え入居者様の思いを汲み、身体の状態を見ています。担当者を決めての毎月のイベントでは季節に合わせた催しに入居者様の様々な表情を見ることができ、その様子を年4回のお便りにてお伝えできることが職員の楽しみにもなっています。また地域の方々にも“いやしの場所”になれるよう庭の花や玄関先の寄せ植え等常に彩りがあるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナウイルス感染症のため、地域との交流事業は行えていない。例年であれば、避難訓練やバーベキュー等の町会行事に参加したり、毎日の食材を買い出しに出かけたりしているが、今は外出もままならない状況となっている。今年は町内の除雪に参加したり、事業所前の公園に天気の良い日に出かけたり、近所の人と窓越しに挨拶をしている。その日の献立はテレビやチラシで食べたいものを利用者と職員で考えて、食材の買い出しに行っている(コロナ禍以前は状態や調子に応じて利用者も買い出しに参加していた)。利用者の体調や役割に応じ、すじ取りやテーブル拭き等、食事の一連の流れに参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日笑ってという理念を掲げ、ホールの見える所に貼り職員が内容を理解し共有している。入居者の一瞬一瞬を大切に取り組んでいる。	法人全体の基本理念は玄関やパンフレットに掲示や記載されている。事業所の理念はそれとは別に事業所内に掲示して職員全体で共有している。法人理念は半年ごとに法人で新入職員対象に研修が行われ、グループホームでは管理者が、新人入職時に話している。また、日々申し送りやミーティングの時等に話して共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入しており回覧板での情報を行っている。昨年はコロナの関係で町会行事等の参加はなかったが、前の公園に来られる方との日常的な挨拶や今年に入ってからの大雪の際には進んでホーム近隣の雪かきを行うなど交流に努めている。	今年はコロナウイルス感染症のため、地域との交流事業は行えていない。例年であれば、避難訓練やバーベキュー等の町会行事に参加したり、毎日の食材を買い出しに出かけたりしているが、今は外出もままならない状況となっている。今年には町内の除雪に参加したこと、事業所前の公園に天気の良い日に出かけることぐらいしかできていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃相談があれば助言を行っている。必要に応じて見学等にも応じている。(昨年に限ってはコロナのため、見学には応じていない)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ対策にて昨年は行政、町会長、民生委員、包括支援センター、家族に対し近況報告、防災、外部評価、ホーム、町会行事、地域貢献に対する取り組み、また事故やひやりはっと等を文書にて発送報告している。	令和2年4月3日付けの金沢市からの「運営推進会議の開催について」という通達に基づき、コロナウイルス感染拡大防止の観点より文書による情報提供という方式で実施している。行事や利用者の状況、ヒヤリハット、職員研修、コロナ対策等について各委員に対して郵送による報告が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	例年と違い会議は開けていないが上記文書を送付したり今年度は実地指導をうけ、現状の報告や疑問点等を質問した。	今年には金沢市主催の研修やシンポジウム、事業者連絡会の会議等も多くが取りやめとなっているので金沢市との連携は昨年と比較してとれていない。今年には介護事故が3件あり市へはきちんと報告が行われている。令和3年1月20日に介護保険課の実地指導が行われて、特に大きな指摘はなかった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やミーティングで職員に周知されている。定期的な検討会を開き、その都度話し合い安全を第一に拘束をしないケアに努めている。	身体拘束等の適正化の指針が整備されて、身体拘束適正化委員会の中で研修も実施している。委員会では日常的支援(ケア面)での疑問や、職員が利用者の行動に制限をかけていないか(フィジカルロックやスピーチロック)等について検討している。建物の施錠は防犯上の観点で、夜勤帯のみ実施している。センサー等を使用している利用者はいない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修等を受け、なぜ虐待が起こるのか話し合っている。職員がストレスを溜めないよう予防し、虐待があった場合その場で注意出来る職員関係に勤めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、成年後見人の手続きの説明を行った事があるが、活用に至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約証、重要事項説明書を基に説明、十分に理解、納得を得ている。改定の場合も説明し理解、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の機会が減った分、電話等での連絡や報告を密に行いその際に、意見や要望を引き出すよう努めている。法人からご家族様に対し毎年アンケートを取っている。	苦情の体制は整備されて、家族への周知は行われているが現在面会制限を行っているため、家族と直接に話すことは出来ない。そのため電話や郵便でのやり取りとなっている。お便りを郵送する時に、利用者の状態を書いて送っている。家族とは、窓越しに面会という方法をとっている。そういう状況の歯がゆさを管理者から聴取した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見交換、提案を出し合い検討している。業務の中でも職員個々の意見を聴くようにしている。	管理者は他の職員と同じく勤務しているので、いつでも職員の意見や提案を受けている。毎日の申し送りや会議等においても職員とコミュニケーションを図っている。法人におけるグループホーム全体の管理的職員も頻りに事業所を訪れて、職員と交流を行っている。コロナのため法人との連絡はファックスによることが多いが、週に一度は事務連絡や小口現金の受け取り等で法人本部に出向いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場に入っていて職員の勤務状況を把握している。法人による年2回の自己評価にて評価を行い、希望の休みは極力聴き入れ勤務表を作成し向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた法人内外の研修に参加できるように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年からのコロナの影響により行動に制限があり、交流や研修などの参加は殆どないがFAXや郵便物等には積極的に目を通してしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の何気ない様子や会話の中で、不安や思い、要望を傾聴し受け止めようと努めている。またホームでの暮らしに慣れて頂き、本人が安心して過ごせる場所と思えるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時にホームの理念を説明したうえで家族の思い、質問を十分伺うようにしている。その後も面会時や電話などで家族の悩みや不安、要望を出来るだけ話せる機会をもうけ、家族の不安や思いを共有できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の状況を聞き、本人、家族が必要とされているサービスについて相談員、ケアマネと連携しながら検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ時間を共有し、共感しながら過ごすことを第1とし、時には職員もいやされたり励まされたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ以前は家族参加の行事を企画し、本人と家族が関わる機会や場面づくりをしており、又外部の医療機関受診の際は職員も同行することにより、家族との情報交換を行いともに支えあっていく関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ以前は親戚の方や友達が来訪され、本人と会話し楽しい時間を過ごしており、コロナ後は積極的に電話での連絡を取り持つなどし関係が途切れないように支援している。	例年であれば家族と一緒にドライブしたり、食事を楽しんでいたが、今年はコロナのため外出も面会もままならない状況になっている。このような制限の中で家族や友人とは電話や郵便などで連絡をとったりしている。ワクチンがいきわたるまでは当分現在の状態が続くと思われる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を把握し、相性を考慮した座席配置にして、利用者同士が支えあったり助け合ったりできる場面づくりをして職員が介入しすぎないように心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先には生活上の好みや傾向等を伝えている。家族に対しては本人の様子を伺い事情が許せば面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのかわりを大切に考え、本人の言葉や動きの中から意向を把握して職員間の情報交換を密にし実現に努めている。	利用者ひとり一人の思いや希望、意向を把握するための基本的な姿勢として、一対一の関係でよく話を聞くこととしている。具体的には利用者の隣に座ったり、利用者の居室でゆっくりと話を聞くことをしている。家族からの生活歴などの情報や、入居前のワーカーやケアマネジャーからの情報等も参考にしながら利用者本位の検討ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から可能な範囲で好みや生活環境、傾向について話を伺い、出来るだけ同様な生活を送って頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の様子を記録、申し送りを確実に行い職員が把握できるようにしている。出来る事の施行を重ね共 有しながら発揮して頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングで担当職員が個別経過報告、職員間で話し合い必要であれば見直しを行っている。また医師、看護師の意見も反映されている。	入居時には法人の調査員が暫定プランを立て、概ね入居後2週間でケアマネジャーがアセスメントを行いユニットスタッフが参加しサービス担当者会議を開催している。モニタリングは3か月ごとに行い、半年ごとに計画は更新している。利用者の記録は、介護記録、三測表、個人送りノート等がある。介護記録には計画書のニーズやサービスの内容の番号を記して計画と整合性をとった記録ができるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護経過記録を基に介護計画の見直しに役立てている。また職員間の共有ノートを利用して活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に居る家族や家族の事情も考慮し利用者のニーズを考えながら、お互いが納得できる支援を行っている。(訪問マッサージ、他医院への通院)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在の状況下では一緒に買い物などでられないが、本人の希望するものを近隣のスーパーで購入する等「決定する喜び」をもってもらよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の同意を得たうえで法人内の医師に訪問診察を受けている。その他必要な診察科目については希望される医療機関を利用して頂き状況に応じて職員が同行している。	入居後に、協力医療機関は往診してくれるため、主治医を変更する利用者が多い。ただ、従来からの主治医のところに通院する方もいてその場合には家族対応で通院している。協力医療機関は夜間もオンコール体制をとってくれているので家族の安心感は大きい。内科以外の医療機関の場合には、近くの医療機関へ通院している。往診は月に二回、看護師は月に四回訪問して利用者の健康管理をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師の訪問を受けており、看護師との連絡表を通して一人ひとりの症状や生活状況の様子を細かに伝え、助言や相談も受けている。緊急時には、電話で相談し指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時本人に関する情報を伝え、入院中、退院直前の様子も伺い退院後の対応について情報を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には入居時に説明しており、重度化した時点で医師、家族、管理者が話し合い、家族の要望に沿った対応をする方針です。職員間も情報を共有している。また入居者の状態変化についてはその都度話し合いを設けている。	看取り加算は算定していないが、昨年看取りの事例はあった。医師と家族、事業所とで方向性を確認して看取りを行った。重度化した場合には、法人内部にクリニックや老健等様々なサービスを持っているため、早め早めに家族と話し合い、意向を踏まえて、他の施設への移行を行っている。現在車いす利用の方は約三分の一で、食事介助の必要な方も増えてきているができるだけグループホームでの暮らしが継続できるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の救命救急、感染症対策研修に参加し緊急時に備えている。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時対応マニュアルを作成し、ミーティング時に職員に周知されている。必要時には見直しも行っている。また夜間 近隣の職員の確保もしてある。	状況別の緊急時対応を記した「緊急時マニュアル」が整備されている。マニュアルはファイルに綴られており、同ファイルに利用者毎の医療・薬剤情報や家族連絡先等、救急搬送された際に必要な情報が一冊になっている。 また、施設として損害保険に加入しており、賠償資力が確保されている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	当法人施設がバックアップ機関であり、介護保険施設及び担当医、看護師もその機関から定期的に訪問を受けており、連携が取れている。	協力医療機関の内科、バックアップ施設の介護老人保健施設は共に同一法人であり、往診時や看護師訪問時に利用者の状況を共有している。 入居相談や問い合わせへの対応は法人の相談課と連携して行っており、管理者は日頃の状況報告や情報共有を担当主任に概ね週1回のペースで行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤は1名体制であるが、医師、看護師、職員が緊急時に対応できるように支援体制を整えてある。	夜勤者は各ユニット1名ずつ配置されている。夜間に救急対応が発生した際に備え、緊急連絡網を整備している。夜間緊急時はまず管理者に連絡が行き、管理者が救急車同乗可能なスタッフを手配する。10分以内に駆けつけることのできる職員は4名いる。また、協力医療機関のクリニックは24時間オンコール体制が取れている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の火災避難訓練又水害時の対応訓練を行っている。また災害時町会から協力体制の打診を頂いている。	年に2回の避難訓練、年に2回の消防設備点検が行われていることが確認できた。 運営推進会議時に訓練の報告を行う際、地域の防災状況の確認や把握が話題として上がることがある。 非常用の食料として米やカップ麺等2～3日分を準備している。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	緊急連絡体制など周知している。非常用の食料、水は倉庫に備え定期的に入れ替え点検を行っている。	「消防計画」の中に火災のほか、地震の際の対応手順も記載され、マニュアル化されている。ホームが2つの河川に挟まれているため、「洪水時の避難確保計画」を策定し、水害対策も行っている。 非常用食料等の備蓄品はあるが、一覧化したものは確認できなかった。	有事の際に全職員が慌てず使用できるよう、備蓄品の使用期限や保管場所をリスト化し、リストに基づいた定期的な点検が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、周囲にも気を配ったさりげない声かけや支援を行っている。排泄時や入浴時は介助以外の職員や入居者が入らないよう注意している。	入浴や排泄など、個々のケアに関してプライバシーや尊厳への配慮が必要な場面で気を付けるべきことがマニュアルに記載されている。 プライバシーに関わることは小声で話す、利用者の入浴時には浴室へは担当者以外の職員は出入りしない等日常的な配慮の実践が行われている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の表情、言動、行動から本人の思いを読み取り、コミュニケーションやジェスチャーを用いながら本人の思いを引き出せるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースでやりたい事ややり方を尊重し、本人の意思を確認して行動している。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴や外出時には本人の好みや希望を聞きながら服装を選んで頂く支援を行っている。また整容の乱れはさりげなく整えている。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きやお箸配り等していただき「与えられた食事」ではなく「一緒に参加する食事」にしている。季節の物や好まれるものを取り入れ、盛り付けにも工夫して目でも楽しんで頂けるように努めて会話が広がるよう配慮している。	その日の献立はテレビやチラシで食べたいものを利用者と職員で考えて、食材の買い出しに行っている(コロナ禍以前は状態や調子に応じて利用者も買い出しに参加していた)。利用者の体調や役割に応じ、すじ取りやテーブル拭き等、食事の一連の流れに参加している。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックをし、毎月体重測定実施し日頃から栄養バランスに配慮している。栄養バランスの少ない方には栄養補助食等で栄養を補って頂いている。また水分補給は食事、おやつ以外にも数回勧めており、水分不足にならないように努めている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の汚れや臭いが生じないように食後歯磨き、義歯の方は義歯の洗浄、うがいを行っている。週2回夜間義歯の洗浄消毒を行っている。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	サインやリズムを把握しさりげなく声をかけたり、もし失敗した場合でも居室に誘うなどプライバシーを損ねない支援を行っている。布パンツ、紙パンツ、パット等個々の状態を考慮して選択している。	利用者の排泄パターンを把握するまでは排泄チェック表を用いてパターンを確認する。排泄のタイミングが把握できたら職員間で共有する。職員は言語的なサインだけでなく、車椅子の動きのような非言語のサインにも気を付け誘導を行っている。オムツは使わざるを得ない場合にのみ使用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜、イモ、海藻を取り入れたメニューの工夫やオリゴ糖、飲むヨーグルトを利用し、水分量の確保を行っている。また体操、散歩など体を働かせる働きかけをしている。排便チェックを行い必要な方には下剤を服用して頂いている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日は決めているが、無理に勧めず気分良く入れる声かけの工夫をしたり、拒否される方には無理強いせず日を変えて再度促している。また本人の体調に合わせて足浴や清拭も行っている。	入浴は各利用者、平均週に2回入ることができるようにしている。 入浴への拒否が見られる場合、声掛けするスタッフを変えてみたり、入浴の時間を変えたり、日を変えたり、あるいは足浴をしたり、入浴してもらえるような工夫を行っている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた様子が伺えた時など休息して頂いている。また不眠の訴えがある方は本人の思いを聞いたり、果物や温かい飲み物を提供し安眠につなげている。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握できるように個々の服薬ファイルを作成し、情報の共有を行っている。用量や種類の変更があった時は症状を観察し情報を受診時に報告している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干しや洗濯物たたみ等出来る事は行って頂いている。また塗り絵、職員手作りの数字合わせや絵合わせのパズル等をされる方もおられ、張り合いのある生活を支援している。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前は花見、散歩、ドライブ、外食等出来るだけ外出の機会を作っていたが、現在は必要時など外出の機会が限られている。	現在は医療機関への受診と天気が良い日に近隣の公園への散歩への外出支援を行っている。 コロナ禍以前は、天気の良い日に突発的にいきたい場所へドライブへ行ったり、概ね月1回程度の行事外出で花見や花火、イルミネーション等を見に行ったり、年に2回は利用者と利用者家族も共に行事に参加する機会があった。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方は管理して頂き、買い物に行かれた時は支払いもお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、親戚の方には電話をかけられるようにしている。遠方の家族と手紙のやり取りをしたり、小包を送って下さる。ご家族様には本人さまより早々に電話をいれたいようにしている。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の座席は相性等を考慮し過ごしやすい場を作っている。また季節に応じた花や飾りつけを行い、その時々季節を感じていただくようにしている。TVなども大きすぎない音とし、カーテンや照明器具を利用し光量に配慮している。ホールから花壇が見え、季節ごとの花を楽しまれている。	共用スペースは、その季節に合わせた飾り付けを行っている(1月は正月、2月は節分、3月はひな祭り等)。飛沫対策としてテーブルにはアクリル板が設置されている。気の合う利用者同士、近くの席で談笑している。合わない利用者がいたら座席の再検討を行い、利用者一人ひとりが快適に過ごせるような配慮を行っている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内でソファの配置を工夫して行っている。入居者同士が会話している事もあり、その時は見守りしている。食事時間以外では席の移動もフレキシブルに対応している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望や家族と相談し、馴染みの家具や写真など持ってきて頂き、少しでも安心して暮らせるよう配慮している。	アセスメント時は利用者が生活していた環境を考えながら、本人にとって安心できる居室環境を整えている。 ベッド、タンス、床頭台、イスは備え付けられている。写真や整理棚、毛布など、本人にとって使い慣れた物を持ち込んでもらえるよう家族に声掛けを行っている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を把握して、居室内の家具や椅子の配置を工夫することにより出来るだけ自立した行動が出来るよう工夫している。		